



みち 古道が紡ぐ物語



天誅組の足跡をたどって ④終焉編

中山卿ら天誅組本隊は東熊野街道最大の難所伯母峰峠を越え、現在の川上村内に入ったものの、追討軍接近の知らせを受けて、山中を越える川上街道から東吉野村方面へと脱出を図りました。しかし、伊勢南街道の要衝である東吉野ではすでに追討軍が布陣し、戦闘が開始されます。決死隊が血路を切り開く中で中山卿らはなんとか脱出に成功しますが、吉村、松本、藤本の三総裁は相次いで討たれ、また、多くの隊士も戦死ないしは捕縛され、文久3（1863）年9月、天誅組は終焉を迎えます。

東吉野の人々は、「維新の魁」となった隊士らを手厚く葬り、その後も顕彰活動を続けたことから、現在でも天誅組の史蹟は村内の至るところに見られます。

山中を川上村から東吉野村へ

文久3（1863）年9月24日、中山卿らの本隊一行は、難所伯母峰峠を越えたものの、行く手に追討軍が迫るとの知らせを受け、足ノ郷峠を越える川上街道から東吉野村への脱出を決定。現在の川上村武木で最後の^{たきぎ}大休息と会食をとる。この時、中山卿らは、村人から鱈節と勝栗のもてなしを受け非常に喜んだという。

川上街道は村境の尾根筋をたどる険しい道だが、かつては東吉野と川上の交流を支えた重要な道で、菟田野^{うたの}や大宇陀の米を始め、生活物資が鷺家口（現東吉野村小川）を経由して川上村へ運ばれた。

武木^{たきぎ}を後にした天誅組本隊は、途中で農夫から鷺家口の状況を聞き出し、すでに追討軍が布陣していることを知る。そこで、決死隊を編成し鷺家口の敵陣へ斬り込み、その混乱に乗じて主将中山卿ら本隊の鷺家口突破を図ることとした。

鷺家口の突破

決死隊は、那須信吾を隊長とした6名で、24日夜、鷺家口の手前を下り、小川（現高見川）を渡って宝泉寺から彦根藩勢の脇本陣「碓屋」を急襲。

決死隊は次々と銃弾に倒れたものの、彦根藩勢を混乱させ、続いて、中山卿らの本隊が小川対岸の彦根勢の本陣「福屋」に突撃。兵の多くが脇本陣に出払っていたため容易に突破した後、対岸へと「出合橋」を渡り、いまだ続く混乱に乗じて脇本陣前を突っ切り、何とか鷺家付近まで逃れた。

天誅組は武木で最後の会食の後、足ノ郷峠を越え東吉野へ向かう



中山卿らは出合橋を渡り、決死隊の突入で混乱する彦根藩脇本陣碓屋前を突破



しかし、鷺家には和歌山藩勢が既に布陣していることから、本隊は突破を無理と判断し、二手に分かれ、街道を離れて山中を西方に逃れた。

藤本、松本二総裁の最期

藤本鉄石、松本奎堂らの一行は、本隊とは別の道をたどり、蟻通神社（現丹生川上神社）へ下った後、高見川をさかのぼり北へと向かった。

この頃、松本は眼病が悪化し失明状態にあり、藤本が付き添っていた。一行は、伊豆尾の庄屋松本清兵衛宅に潜伏したが、翌25日には和歌山藩の探索を受けることとなり、隊士を先に脱出させた後、松本は駕籠に乗り庄屋宅を後にした。

御殿越しという山中の道をたどったが、駕籠に乗る松本は、藤本と離れ離れとなり、さらに、銃

声を聞いた人足たちが駕籠を捨てて逃げ出したことから、従者に手を引かれてさまようところを和歌山藩兵に銃殺された。

また、藤本は、従者と共に伊勢南街道を目指したが、街道筋にはすでに和歌山藩兵が布陣していることから、二人は覚悟を決め、和歌山藩本陣の庄屋辻家とその隣の脇本陣「日裏屋」に斬り込み壮絶な最期を遂げた。

吉村虎(寅) 太郎の最期

高取城攻めでの戦傷が悪化した吉村は、筵を二つ折りにした駕籠に乗り、4名の隊士と本隊の後を追っていた。しかし、鷺家口での戦闘の銃声が聞こえてきたことから人足が駕籠をおいて逃げ出し、戦闘力の乏しい吉村らは仕方なく小村に下り、鷺家口を避けて木津川を目指した。

木津川では庄屋の堂本孫兵衛宅に26日まで潜伏したが、やがて搜索の手が迫り、深夜を待って庄屋宅の裏山から脱出。27日未明頃には山を越えたものの、薪小屋で休んでいたところを村人に見つかり、津藩兵により銃殺された。

吉村の亡骸は大岩の下に葬られ、後、明治谷墓地に改葬されたが、現在は、「吉村寅太郎原えい処(最初に亡骸を葬った処)」として保存され、川を挟んで「天誅組終焉之地」の碑が建つ。

天誅組のその後と顕彰の動き

東吉野で終焉を迎えた天誅組であるが、山中に逃れた中山忠光卿以下7人はなんとか大阪の長州屋敷にたどり着いた。その後長州に渡ったが、やがて中山卿はその急進性が恐れられ暗殺された。

また、先行した伴林光平らは、東吉野での戦闘の数日前にからも脱出したものの、その後捕えられた。その他、散り散りになった隊士たちで東吉野を逃れた者もあったが、多くは捕えられ、京都六角獄舎へ送られた後処刑されている。

東吉野村内に散った多くの隊士は、村人たちにより、今は村内の「明治谷墓地」「湯ノ谷墓地」の2か所などに祀られており、宝泉寺及び龍泉寺の2寺院で菩提が弔われている。



「天誅組終焉之地」碑と吉村寅太郎原えい処



隊士らの墓石とその脇に眠る梶谷信平夫婦の墓(「湯ノ谷墓地」)



さらに、戦跡の保存顕彰活動も活発で、村内諸所に顕彰碑が建立されている。この先駆けとなったのが、明治期、私財をなげうち天誅組の記念碑と殉難隊士の墓石建立に奔走した梶谷留吉と信平親子で、「湯ノ谷墓地」には隊士の墓の脇に梶谷信平夫婦の墓がひっそりと建つ。(山城 満)